

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2770801344		
法人名	社会福祉法人 楠黄福祉会		
事業所名	ぐるーぷほーむ 泰昌園		
所在地	大阪府大阪市東住吉区湯里4丁目10番5号 (電話)06-4302-3327		
評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年7月17日	評価確定日	平成20年9月8日

【情報提供票より】(平成 20年 5 月 31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 11 月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 12 人
職員数	21 人 常勤 9人, 非常勤 12人, 常勤換算 12.8人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨コンクリート造り		
	4 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	39,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(500,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1600円	

(4)利用者の概要(5月31日現在)

利用者人数	12 名	男性	2 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2			1 名
年齢	平均 82 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 丸山会 八戸ノ里病院、はまだ歯科、医療法人五月会 青山第3病院 東和病院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人 楠黄福祉会が運営する「ぐるーぷほーむ 泰昌園」です。1階は、地域の方も利用出来るティールームがあり、2階3階がグループホームになっています。1ユニット6名定員で、利用者の状況の変化に応じ、きめ細かい介護や対応に応じることが出来る体制を持っています。ホームが近代的な建物であり、利用者の過去の生活環境とは異なる部分もあるが、できるだけ、入居者一人ひとりの生活歴を大切に、一日の過ごし方を職員が決めるのではなく、利用者と同じ立場、目線になり、利用者本位の過ごし方ができるように努力しています。また、管理者の熱い思いがあり、家族の思いを理解し、大切に考え、家族の関係を断ち切らないように支援し、心のふれあいを重視した生活が出来るよう支援されています。また、職員のやる気を大切に研修体制も充実し、計画作成担当者が保健師と看護師の資格を持っており、安心した日々を暮らせるホームです。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受け、地域のつきあいについては、ふれあい喫茶に参加しています。職員と話し合いながら、自然な流れで溶け込めるように努力しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、常勤職員に外部評価票を配り、記入してもらい管理者がまとめました。職員一人ひとりの考えや思いがわかり、反映できるように、月に1回の職員会議で話し合い、改善に取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、利用者家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター、権利擁護代表、などが参加する運営推進会議が2か月に1回開催されています。ホームでの活動報告をし、活動内容について参加された方からの評価や要望、助言を受け、サービスの向上に努めています。また、次回の会議までの課題についても話し合われています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には、直接コミュニケーションを取ったり、何かあった時には、電話で様子を伝え、希望や意向を聞いています。運営推進会議に家族の参加があり、意見や要望を聞いたり、家族の自宅訪問や経営されているお店を利用し、話しやすい環境づくりに努め、毎月の会議で話し合い、改善に向けて取り組んでいます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入っています。近隣の方と挨拶を交わしたり、ふれあい喫茶に参加しています。また、ホーム1階のティールームを会議の場として利用されたり、夏祭り、誕生日会に参加があり、少しずつ自然な流れで、地域の方と交流が出来るように努めています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設の理念以外にも「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」を近隣のグループホームと話し合い、共同で作られ、地域の中で明るく楽しく暮らしていけるよう支援していくことを目指しています。	○	共同で作られた理念を基に、グループホーム独自の地域密着としての理念を、職員全員で話し合わせ、わかりやすい言葉で作られることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者も現場に入り、朝の申し送り時やそのつど話し合いを持ち、理念の共有に努めています。また、新任職員には、理念の意味を教育し、話合う機会を持っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入っており、一般家庭と同様に、回覧板で地域の情報を得ています。地域のふれあい喫茶に参加したり、地域に根差した交流ができるように努力されています。また、ホーム1階の喫茶として開放されており、地域の方の会議の場に利用してもらったり、お茶を飲みに来られたり、夏祭りや誕生日会などに参加していただいたり、交流しています。運営推進会議や町会の班長会議を通じて、地域の行事に参加できる機会を持てるよう努力しています。今後保険予防指導教室の様なものを開いていきたいと考えておられます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	常勤職員に外部評価票を配り、一人ひとりの思いや考えを記入してもらい、管理者がまとめました。年に1度、外部評価を受けることで振り返る機会や職員の思いや考えがよくわかり、会議などで話し合い改善に向けて取り組んでいます。	○	常勤職員だけでなく非常勤職員にも、外部評価の意味や内容を理解してもらい、思いや考えを取り入れられることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター、権利擁護代表などが参加する運営推進会議が、2か月に1回開催されています。ホームでの報告を行い、活動報告について参加された方からの評価や要望、助言なども頂き、サービスの向上に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員とは、認知症の勉強会の誘いがあったり、日々、困難事例など相談にのってもらいアドバイスを頂いています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪が多くあり、直接コミュニケーションを取り様子を伝えています。自然な流れで、来訪してもらえるようにしています。また、写真入りの行事報告や予定、高齢者医療の流れ、川柳などを掲載した「ぐるーぷほーむ泰昌園だより」を毎月、発行しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを大切にし、利用者だけでなく、家族の心情も組み入れたプランを作成するために、来訪時や電話だけでなく、ご自宅にもお伺いし、話しやすい雰囲気の中で様々な意見を聴取するように工夫している。また、運営推進会議にも参加して頂き、その中でも意見を出せる機会を作っている。意見や苦情が出たときは、早急に職員全員で話し合い対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2階3階で特定に職員配置を分けずに、馴染みの関係作りをしています。管理者は、職員の心身の状況に気を配り、常に聞く耳を持ち、何でも話せる環境を作っています。また、退職者が出た時も、安心して変わらないケアができるよう目指されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修では、案内が来たら、希望を募ったり、必要な職員に声をかけ、職員の参加意欲を確認して研修の参加をしています。研修後は、報告書をまとめ、回覧し、伝達研修をしています。また、新任職員には、保健師と看護師の資格を持った職員が講師になり、認知症について勉強しています。今後、ホームでマナー研修をする予定です。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現場の職員が、年に2回、昼食を兼ねて、近隣のグループホームと意見交換や情報交換をする座談会を予定しています。また、管理者は、2カ月ごとに東住吉区内のグループホーム同士で集まり、見学や空床状況などを連絡し合い、質の向上を図っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、利用者、家族に見学に来てもらい他の利用者の生活状況や雰囲気をみてもらい納得して入居できるよう相談しています。家族全員が見学に来られ、納得して入居に至った利用者もいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を振り返り、職員も人生勉強を共にさせてもらっているとの気持ちを大切に、お互いが助け合い自然に学び、上から目線にならないように支えあう関係を築いています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者、家族からの情報収集を行い、家族の来訪時や利用者からの話をよく聞き、一人ひとりの思いや希望、意向に沿えるよう努めています。利用者ごとには担当職員を配置し、より一層利用者の把握に努めています。思いや意向については、できるだけ、早急にその場に応じた対応が出来るよう心がけています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を使用し、本人の思いや意向、家族の意見などを尊重して、全職員が利用者や家族からこれまでの習慣や生活歴などの情報を収集し、日常の会話や行動などの情報を基に、計画作成担当者や管理者、担当職員が中心に介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回のモニタリング、6か月ごとの見直しを行っています。状態に変化がある場合は、随時見直しています。また、利用者1人に2名の担当職員を配置し、介護記録を元に、計画を見直し、他の職員からの意見も取り入れ職員会議などで話し合い、見直しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、一緒に通院したり、入院中の利用者に面会に行ったり、家族と同様に役割を担い支援しています。施設の設備には、普通浴が利用できない場合でも機械浴も設置されており、状態の変化があった時でも入浴ができるようにしています。また、家族の来訪時には、ティールームを利用していたり、家族、利用者、職員と一緒に外食に行くこともあります。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医か往診医にするか決めていません。週に1回の往診があり、訪問看護と24時間の医療連携体制をとっています。職員が保健師と看護師の資格を持っており、医師や看護師との情報交換を行い、安心して医療が受けられるようになっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期になった時の対応の仕方について話し合っています。希望や要望があった時は、家族や利用者、医師、職員と繰り返し話し合いその時の状況に応じて決めていきます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイルは、1階事務所に保管しています。生活の中で、居室に入る時には、利用者に許可を得て入るなど利用者を困らせないような誘導を心がけています。また、マナー研修などに参加し、言葉と体が連動している挨拶の仕方や表現の仕方を身につけられるように努力しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のペースを職員の主体にならないよう、利用者がどのように過ごしたいか思いを表せるように働きかけ決めてもらえるよう心がけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ物を食べています。男性の利用者もフライパンで炒めものを作ったり、準備や片付けなど出来る場面を作り、一緒に楽しみながらしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は身体的に制限されていない方は、人により毎日行っています。その他、下肢保温・浮腫軽減・疲労回復をかね午前中に足浴をして健康観察をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の状態に応じて、食事の準備や片付け、趣味であったパズルや絵を描いたり、職員からの提案で外出やドライブに出かけたり、1階のティールームに行きお茶を飲んだり、テラスに行き外観を眺め、楽しみや気晴らしの支援をしています。また、家族も一緒に昼食を取り楽しめることもあります。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば外出できるように支援しています。家族の協力を得て、利用者、家族、職員と食事に出かけたり、希望に応じて散歩や買い物など戸外に出かけられるよう体制を持っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全を第一に考え、鍵を掛けています。出かけた様子を感じたら、職員が寄り添い一緒に出かけています。いつでも出かけられる安心感を持ってもらえるよう対応しています。また、家族には、鍵を掛けていることについて、説明し理解を得ています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立会のもと消防訓練をしています。実際に出火、通報、避難の仕方を消防署の方に見てもらい、体験を通じて確実に避難できるようにしています。また、地域の防災訓練に参加する予定です。	○	運営推進会議などを利用し、地域の方々にホームの状況を知ってもらい、防災訓練に参加を呼びかけ、協力体制が作れるよう話し合わせてみては、いかがでしょうか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量や水分量は、毎回記録されています。昼・夕食の食材は、外部業者から届けられ、おおよそのメニューから、その時の希望や職員がアレンジしながら工夫しています。脱水や食事拒否など体調の変化が見られる時は、医師と連絡を取り、観察強化し自然な流れで声かけしたり、食事介助しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、明るく木彫りのイスやテーブル、ソファ、可動式の置コーナーがうまく配置されており、利用者が自由に行き来が出来居心地よく過ごせる工夫がされています。また、対面式キッチンになっており、利用者の状況が分かるようになっており、利用者及び職員の導線を考えた配置を工夫しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたタンスやテレビ、大切にしている仏壇、テーブル、イス、写真などを持ってこられています。フローリングの上に畳をひいたり、一人ひとりが、納得し居心地よく過ごせるように支援しています。		